

科目	運動療法学概論	担当	古川 公宣	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

運動療法学は、理学療法を中心的な治療方法である。まず、運動が生体に与える影響を十分に理解し、運動の功罪を理解した上で各種障害に対して適切な運動療法ができるように基礎的な知識とその技術の修得を目標とする。

【履修注意】

3年次に開講される専門科目の基礎となる科目である。基本的な運動療法手技は、臨床実習や日常の理学療法業務で最も多用されるものであるため、十分な学習を行うこと。

【評価方法】

出席、受講態度、定期試験等を総合的に判断する。

【試験について】

筆記試験(出席日数が規定に満たない場合は受験不可)

再試験対象者の条件:60点未満を再試験対象とする。

【予習・復習】

解剖学、運動学、生理学の知識をもとに講義が進行するので、必要部分の確認を必ず行って講義に臨むこと。

【教科書】

書籍名:標準理学療法学 運動療法学 総論 第4版 著者:吉尾雅春,横田一彦 編集 出版社:医学書院

【参考書】

指定しない。

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	運動療法の概念	歴史、運動療法とは何か
2	運動療法の基礎1	関節の構造と運動、筋と筋収縮
3	運動療法の基礎2	随意運動と運動制御の生理、運動制御と運動学習
4	運動療法の基礎3	運動と呼吸、循環、代謝
5	組織の病態生理と修復1	運動器系
6	組織の病態生理と修復2	神経系(中枢及び末梢神経系)
7	運動の種類	力と筋収縮様態による分析
8	基本的な運動療法1	関節可動域訓練
9	基本的な運動療法2	筋力増強訓練
10	基本的な運動療法3	持久力増強訓練
11	基本的な運動療法4	協調性訓練
12	基本的な運動療法5	脳のシステム障害と運動療法
13	基本的な運動療法6	痛みに対する運動療法
14	発達と運動療法	正常運動発達、脳性麻痺
15	各種治療体操	腰痛症、肩関節障害、側弯症など
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ